



錦海塩田跡地活用事業『太陽のまちプロジェクト』の推進について ～ 跡地の安定管理 と 活気があり安心して暮らせるまちづくり ～

錦海塩田跡地の活用による『太陽のまちプロジェクト』について、お知らせします。

◆ かつての錦海塩田

昭和 30 年代から、堤防が造られ、製塩が始まりましたが、後に塩田の製塩から工場製塩に転換されたことにより、当初の目的で使われることなくなった広大な塩田は、開発計画が持ち上がっては消え、継続的な活用策が定着しませんでした。



◆ 市が平成 22 年に塩田跡地を取得

海面より低い塩田跡地は、常に安全管理が必要な場所です。

市では、塩田跡地の所有会社による管理が不能となった後、ポンプ排水の継続を行い地域の浸水被害を防ぐなど、安定的な公的管理を行い、市民の安全・安心を守ることを目的に、平成 22 年 12 月に跡地を取得しました。



活用策検討

- 塩田跡地を安全に管理していこう
- 環境を守っていこう
- まちの活性化につなげよう
- 市で開発事業の費用を負担するのは困難、民間企業の力を活用しよう

現在の錦海塩田跡地

◆ 太陽光発電事業を軸にした取り組み

市では、跡地活用に当たり、民間企業の力を活用することとして提案公募を実施し、活用企画案と実施事業者を選定し、安全・安心を確保した上で、地域の活性化を進めていくことを目指し、平成 25 年 3 月に、跡地活用の基本計画を策定しました。

平成 26 年 4 月から、実施事業者「瀬戸内 Kirei 未来創り合同会社」に跡地の貸し付けを行い、基本計画に沿って、太陽光発電事業を軸とした、安全・安心のための対策事業、環境保全事業、まちづくり事業を進めます。市では、市の魅力や認知度の向上を図るため、この取り組みを『太陽のまちプロジェクト』として掲げて、推進していきます。



◆ 『太陽のまちプロジェクト』の目指すところ

未利用の場所から価値を生み出す生きた場所へ

- 広大な塩田跡地は、さまざまな活用の可能性を秘める一方で、海より低く、ポンプ排水など、維持管理に関する課題を抱え、時には負の遺産と呼ばれることもありました。
- 太陽光発電事業への活用で、発電実施事業者に跡地を貸し付けることにより、未利用の土地を、収益を生み出す土地へ転換し、「貸付料収入による市の財源確保」を図ります。

安全・安心を守る取り組み

- 塩田跡地は、約 1.8 kmに及ぶ堤防で錦海湾と接しており、災害に備えた管理が必要です。実施事業者は、約 32 億円の費用を負担して、堤防補強工事、防潮堤設置工事、排水ポンプ増設工事、非常用発電機新設工事などの安全・安心事業を実施します。この安全・安心施設は、工事完成後に、市が寄付を受けて管理します。
- 安全・安心事業の実施による地域の防災面の「安全・安心の確保と提供」と、貸付料収入を活用した跡地とその周辺環境の安全で継続的な管理を行います。

まちの活性化につながる取り組み

- 貸付料収入を有効に活用して、財政規律を保ちながら、課題解決を図り、また、豊かな自然環境など市の持つ魅力（地域資源）を生かし発展させ、将来につながる地域の活性化や、子どもたちがまちに誇りを持てる人づくりなどの取り組みを進めます。

環境にやさしい取り組み

- 日本の電力は、海外から輸入する石油や石炭などの化石燃料のエネルギーにその多くを頼っています。太陽光発電は、自然の中にある再生可能エネルギーの 1 つであり、地球にやさしく、温暖化対策に役立つ国産エネルギーです。
- 塩田跡地の多くの動物、植物の環境に配慮して、海側に広がる塩性湿地帯などには、原則、手を加えない計画にしています。

発電所完成イメージ図

(提供元：東洋エンジニアリング株式会社)

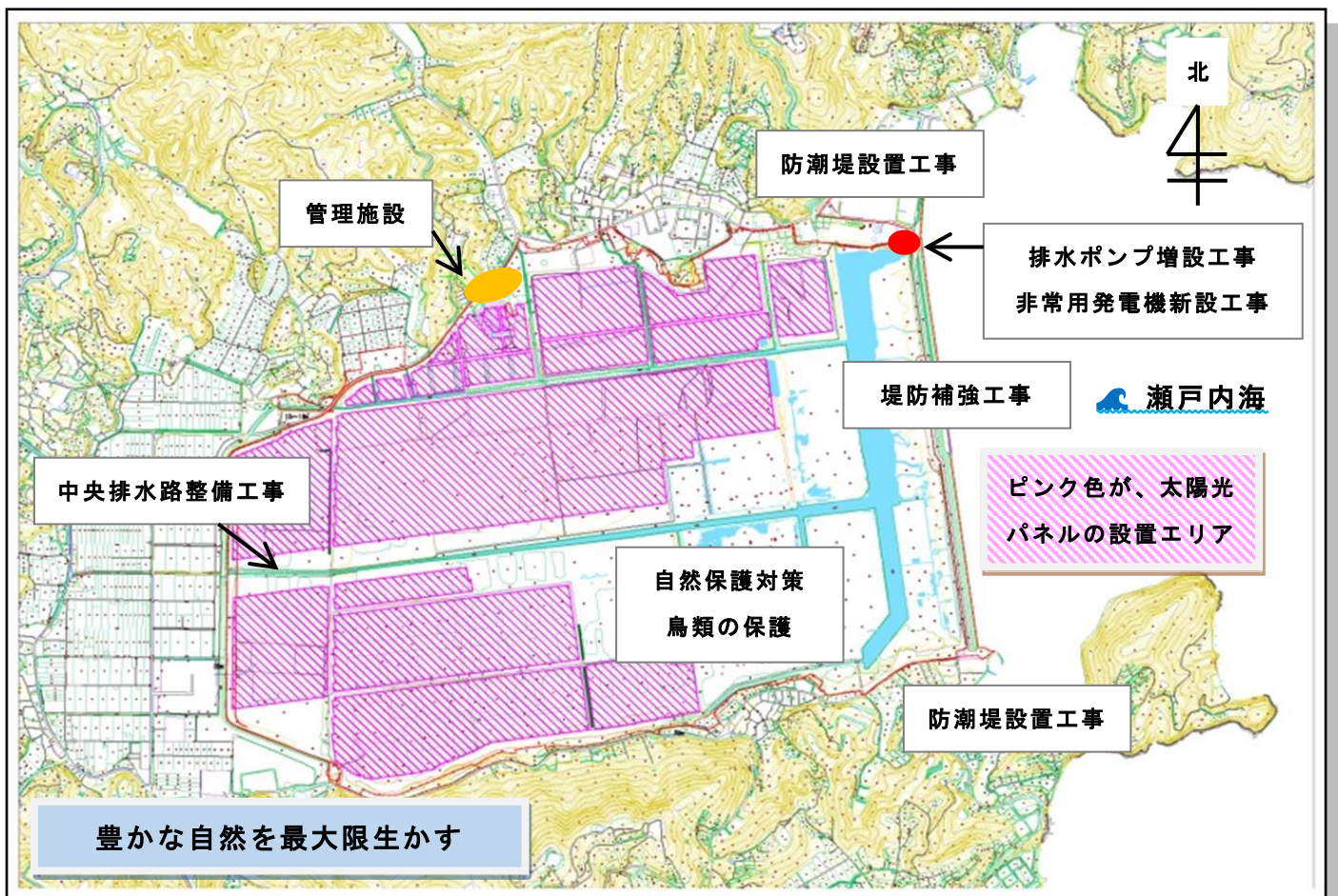
発電所面積：約 265ha

運転開始：平成 31 年 4 月
(予定)

総事業費：約 1,100 億円
(実施事業者で負担)



◆ 跡地活用計画図



◆ プロジェクトのことを市長に聞いてみよう

『教えて市長』

塩田跡地から一番近い牛窓北小学校の6年生から武久顕也市長に質問してもらいました。小学生と市長のやりとりのうち主な内容を掲載しています。

【参考文献】経済産業省資源エネルギー庁ホームページ掲載資料



小学生—錦海塩田跡地とはどんな場所ですか？

市長—皆さんの学校から海側に見える広大な土地です。面積は約500haで、東京ディズニーランドなら10個分の広さです。もともとはたくさんの魚が生まれ育つ海であったところに、今から50年以上前に締め切り堤防が造られました。私（市長）が生まれた頃は、大きな塩田として活用されていましたが、塩田の塩作りは長く続きませんでした。

その後、塩田跡地を所有する会社の運営は立ちいかなくなってしまいましたが、塩田跡地は、海面より低い土地で、いつも海水が入ってきていて、これをポンプで海に出す作業が必要です。

ポンプの運転が止まり、跡地や周りの地域が水浸しにならないよう、安全な管理を続けるために、市が、跡地やポンプ、堤防を買い取って管理することに決めました。

小学生—どうして太陽光発電を行うのですか？

市長—太陽光発電は、自然の中にある再生可能エネルギーの1つであり、地球にやさしく、温暖化対策に役立つ国産エネルギーです。

錦海塩田跡地の発電所は、日本最大級の大きさで、瀬戸内市のCO2排出量の約半分に相当する量の削減効果があると見込まれ、発電により、1年間に瀬戸内市の世帯数の4.6倍を超える一般家庭約7万世帯分の消費電力量をまかなうことができます。

瀬戸内市には、たくさんの太陽の恵みと、広大な塩田跡地がそろっています。また、もともと海であった塩田跡地には、重くて大きな建物などの建設より、広さを生かした太陽光パネルの設置が適しているのです。

こうしたことから、太陽光発電事業による塩田跡地の活用を進めることにしました。

小学生—太陽光発電は、誰が、どのように行うのですか？

市長—発電事業は、市ではなく、民間の会社（実施事業者）が行います。

今、再生可能エネルギーで発電した電力を電力会社が、長期間、買い取り、発電にかかるコストの一部を、電気を使う国民みんなで少しずつ負担して、再生可能エネルギーの導入を進める国の制度が始まっています。市では、この制度に基づいて、民間の力（技術力、資金力）を生かした取り組みを進めることにしました。つまり、太陽光発電事業は、市が費用を出すのではなく、実施事業者の費用で行われます。同様に、堤防の補強、排水ポンプの整備などの安全・安心のための工事も実施事業者が行います。

市は堤防、排水ポンプなど防災施設の整備をしてもらうことに加え、実施事業者に塩田跡地を貸し付けて、この貸付料収入を得ることができます。

小学生—堤防は大きな災害に耐えられますか。また、市に入る貸付料はいくらですか？

市長—堤防の補強工事が完成すると、最大規模の災害として考えられる南海トラフ巨大地震の揺れや津波に耐えることができます。

貸付料は、一度にまとめて入るのではなく、各年度に一定額ずつ市に入ります。例えば、発電が始まってからは、毎年、4億円を超える収入を予定しています。平成26年度から25年後を予定している発電事業終了までの期間で、総額101億円を見込んでいます。

小学生—貸付料はどんなことに使っていきますか？

市長—皆さんのような将来を担う子どもたちに、市の魅力や環境のことを知ってもらって、素晴らしい経験をたくさん積んでもらい、皆さんが瀬戸内市に誇りを持つことができるような、人づくり・まちづくりに活用したいと思っています。

また、塩田跡地の管理、排水ポンプの運転などの施設の維持管理をしっかりと行うことや、太陽光発電所が市の魅力の1つとなり、観光の面や産業の面で、まちが活性化することにも活用したいと思っています。

問い合わせ先

瀬戸内市 錦海プロジェクト推進課 電話：0869-22-1296